美術の窓(74)

京画壇の逸材
—渡辺始興をめぐって—

大手前大学教授
大阪大学名誉教授 武田恒夫

始興の絵をみていると、気分が和む。大覚寺正寝殿の腰障子に描かれた兎で有名な板絵などは、そのよい例である。近衛予楽院家熙の息子であった寛浄門主が、十二歳で入室されたのを機に制作されたといわれるが、嬉遊する野兎のさまざまな姿態を草叢にとらえている。門主の生れが卯年であったという、いかにも機知的で優しい心遣いが伝わってくる。始興による一連の墨絵をみても、気取りのない親しみ深い趣きがくみとれる。京都画壇に、その頃、身を寄せていた久隅守景の墨絵などとも似通うところがある。二人が接触したという確証などはないが、この頃の京画壇における守景や始興の活動が興味をひく。

元禄期の前後に尾形光琳の登場によって、京画壇は華やいだが、その後再び沈静化に向ったかにみられがちだった。けれども、既に胎動は始まっていたのであって、この秋に催される特別展は、それを告げる何よりの証となるだろう。

狩野派が大挙して江戸へ移っていった後もふみとどまった京狩野を代々応援してきたのは、在京の公家や京畿方面の有力社寺であって、始興の画業を支えてくれたのも同じ環境といえる。主だった支持者として、生涯にわたり恩顧を受けた近衛家を挙げたい。ことに予楽院はその最たる人とみることができる。また『家譜』によると、中年期に出入りを許されたという東宮御所の庇護もみのがせない。さらに、障壁画で始興の画名を高からしめている大覚寺や奈良の門跡寺院である興福院など、何れをみても始興を見守ってくれたパトロンたちである。

始興の遺品については、明治時代もかなり早いころから関心がもたれてきた。それらを通覧して、大画面の障子絵や屏風絵、掛幅、図巻、扇絵、さらには絵馬といったあらゆる画面形式が認められる。また、和漢にわたる諸画題、水墨から金碧におよぶ彩墨種々の手法にも画技を発揮したことで、いかに多能な画人であったかが分かる。琳派の画家として扱われることが多いけれども、その幅広いレパートリーが身上であったことは、施主たちの多面的な需要に応えうる器量の持ち主だったことを物語っている。狩野派のように集団活動で威力を示したのとは区別する必要があろう。流派に定められた画法や組織による流儀に律せられた絵師たちは、共同制作を見事に達成させることができる。これに対して、それぞれの画家の持ち味に対して、制作が依頼されるのは、施主と画家との密接なかかわりによるところが大きい。始興の絵に親しさを覚える所以である。

模写と写生が、始興画の発想にゆたかな滋養を与えているが、そのような古典と自然への関心は狩野探幽にはじまる。始興のやまと絵研究の代表作である「春日権現霊験記絵巻」二十巻の精彩な全巻模写が、近衛家に伝承してきた。これをみても、かかる名品への理解と精力的な仕事振りに瞠目せざるをえない。また、探幽の写生が、ひいては円山応挙のそれに発展していった背景を考えると、写生を介して探幽、始興、応挙というつながりが浮び上ってくるのを重視したい。応挙は日頃始興を「能手」といって、高く評価していたという。

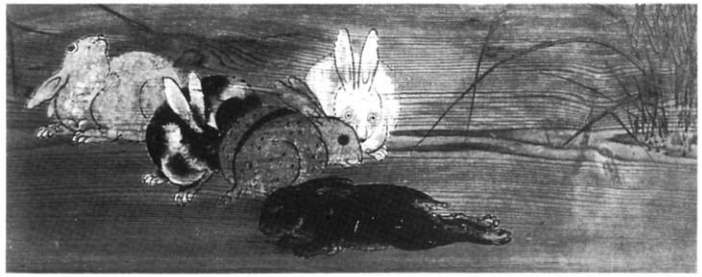
さすがの始興も、浮世絵には手を染めることはなかった。当時の京都には西川祐信のような初期浮世絵の名手が出たものの、その余風は継続されずに終っている。京の風土がそれを求めなかったのであろう。揺籃期にあった洋風画や文人画もその対象とはならなかった。そのはじめ狩野派に学んだというのは、当時の絵を志す画人たちにとって、一応の通過儀礼のようなことがらであったが、始興はそうではなく狩野派で得たものを生涯大切にしていたふしがある。次には、光琳を学んで始興画の重要な局面を形成することになった。その修業過程をみても、常に自分の納得のゆく道を選んでいたことが分かる。

始興の時代、前後する京画壇には、作風の上からも対照的な画家たちが生れたことも見落せない。例えば、山口雪渓などもその一人で、画名の通り雪舟と牧谿を慕った気骨ある漢画家であった。雪渓に師事した望月玉蟾、玉蟾に学んだ大西酔月、何れも古画や元明画を問いかけることで、三者のつながりは不即不離というべく、それぞれの道を歩ませていた近世京画壇の特色の一端をうかがわせる。

始興の場合は、和漢の両様を駆使することで、古画への傾倒にとどまらず、今日の観賞者たちにも共感を誘いかける斬新な画境を披瀝している。柔軟な制作態度で支持者からの需要に応えていたことが分かる。

「始興特別展」は、新出の作品も登場する予定で、始興というスポットが十八世紀前半の京画壇に当てられることを期待したい。

野兎図(腰障子十二面の内) 重要文化財 大覚寺蔵



季刊 美のたより No.132
平成12年10月 1 日
発行 大和文華館

Copyright ©2007 The Museum Yamatobunkakan. All Rights Reserved.